

無知でいることから始まる

20歳を過ぎてから踊りを始めて、ずっとハツタリをかましてここまできた気がします。「僕は踊れます」と言えば、実力は後からついてくる。そうして新しいことに挑戦してきました。ダンス、演劇、映画、音楽、能……様々なジャンルとともに踊りましたが、どの世界も知れば知るほど奥が深い。たぶん無知だったから、知らない世界に飛び込んでこられたんですね。知らないからこそハツタリをかませるし、挑戦できる。

ただ、それはひとつの芸を極めることと矛盾することでもあります。鍛錬するから極められるし、鍛錬するから見失うこともあると、葛藤もします。けれどダンスはいろんなジャンルとコラボレーションすることで新しいものを生み出していくので、「もっと知りたい」という探求する強さを持ち続けたい。そのために自分が無知であることを認め、歴史に敬意を払いながらもわからないことは聞く。

今回、自分は踊らずに演出に専念します。しかも初のオペラ歌手とのコラボ。その道のプロに学びながら、無知だからこそできる提案をしたいし、新たに学びたい。無知なことが出発点です。

花伝舎を歩き交う人々 その4

[コンテンポラリーダンサー・振付家]

森山開次

文化庁からの助成を得て、劇場・音楽堂等が連携して、ハイレベルなオペラを新演出で制作する「全国共同制作プロジェクト」。2018年度事業として取り組まれた『ドン・ジョヴァンニ』は、“オペラ×ダンスの邂逅”と銘打ち、新たな表現が模索されていました。花伝舎で行われた稽古にお邪魔して、初めてオペラの演出に挑む森山開次さんに、作品にかける思いを伺いました。



ドン・ジョヴァンニ役のヴィタリ・ユシュマノフさん(左)とドンナ・エルヴィーラ役の鷲尾麻衣さん(右)
恨み言を並べるシーンも、稽古中には笑みがこぼれる

オペラ×ダンスが邂逅する稽古場

華やかな放蕩者ドン・ジョヴァンニ。モーツァルトの楽曲に乗って、女たらしの彼をめぐる様々な恋模様が繰り広げられます。「ドン・ジョヴァンニが女性の胎内で暴れている様子をイメージしています」と森山さん。舞台上では10名の女性ダンサーが、登場人物たちを取り囲むように踊っています。

森山さんとドン・ジョヴァンニの出会いは20年以上前。なんと初めて演じた役だったそうです。「縁を感じますね。嬉しくて、今作品のお話をいただいた瞬間からイメージがどんどん広がりました」。

ダンサーである自分が演出をするからには、

ダンサーが添え物やバックダンサーではなく、作品そのものでなければいけない。「オペラを見慣れている方からは批判もあるでしょう。でもダンスで作品を見せる試みをしなければ、僕がやる意味がない。危険を承知で、オペラ歌手を際立たせるダンス演出をやります」。柔らかい口調で、自分がここにいる意味を見据えています。

この日の稽古は、オペラ歌手たちの立ち位置の確認が中心。11月からダンサーたちと組み立ててきた踊りに、歌手らがかかります。おおまかな立ち位置を森山さんが指示し、「じゃあこう動いたらどうでしょう?」と互いに提案し合います。指示された動きに歌手がうまくはまらない時

には、森山さんから「この台詞はこんな気持ちなんじゃないかな」と、役の気持ちを読み解くアイデアを出すことも。

「歌手を活かしていく」と森山さんが言うように、一人ひとりの持ち味や提案に耳を傾けながら、シーンを創っていきます。「当然ですが、『ドン・ジョヴァンニ』について考えてきた時間や深さは到底彼らには及びません。だから会話をしながら稽古を進めたい。限られた時間のなかで葛藤する日々です」。

対話を積み重ね、新たな動きが生まれていきます。ダンサーたちもまたそれぞれが、立ち位置や歌手との距離感を確認しながら、身体を調整

していきます。

「ダンスをやっている、コラボレーションや出会いが一番の喜びです。今回はオペラというジャンル、そしてモーツァルトという歴史や伝統とのコラボレーションでもあります。楽しいですね」。

全国共同制作プロジェクト『ドン・ジョヴァンニ』

総監督・指揮：井上道義

演出・振付：森山開次

1月20日／オーバード・ホール

1月26日・27日／東京芸術劇場

2月3日／熊本県立劇場

季節を感じられる稽古場で踊りたい

これまでステージに立ち続けてきた森山さんにとって、「自身が踊らない作品」というのは未知の経験。「自分が踊ればなんとかなる、という訳もない自信でやってきました。でも今作品では自分が舞台上に立たないので、不安はとて強いです。踊りたいという歯がゆさもあります。ダンサーたちと向き合って、彼女たちを活かし、信じて任せること。演出・振付だけに専念するのは初めての経験ですから、いい機会だと思って初心に戻っています。きっとこの舞台は僕の人生でのターニングポイントになるでしょう」。

人よりも遅くダンスを始めた森山さんですが、28歳の時にイギリスの新聞に「今年最も才能あるダンサーの1人」と書かれ、34歳では世界最古の芸術祭『ヴェネチア・ビエンナーレ』で全世界15組のうちの1人に選ばれました。今、45歳。誰も通ったことのない道を歩み続けています。

「自然のなかで風を感じながら踊りたい。薪能など外で踊る魅力を知ってからは、自己表現のためだけでなく、土地の中で生きることがダンスをやる喜びだと感じるようになりました。日常の中で、もっと豊かに自由に感じられる空間で踊りたい。日本は豊かな四季がある土地なので、木の実が落ちて、土の匂いをかいで、気温を感じることで豊かな表現がうまれるのだと思います」。

花伝舎は、四季を感じられる稽古場だと言います。小学校の校舎を改修した部屋は、窓が大きく、冬は寒くて夏は暑いことも。身体をつかうダンサーにとっては、決して最適な環境とは言いがたい面があります。しかし森山さんは、これまでも何度も稽古のために足を運んできました。「寒い寒い、暑い暑いと言いながら踊るのが僕は好きなんです。窓のないスタジオの鏡の前でラジカセの音で踊りながら、自然や宇宙を感じようとする自分が滑稽だと思うこともあります。やっぱりダンスは身体表現なので、肌で四季を感じたい。ここは僕にとっても貴重な場所です。大事にしたいな」。



時には森山さんみずから動きを示す



「それ以上前に出たら舞台から落ちるよ!」
立ち位置と導線を確認していく

スコアを確認しながら歌手と一緒に
最適な表現を話し合う

失った恋を想うさみしさを表現



『初めての日本舞踊—日本の文化と人を知ろう』

日時：2018年10月24日～28日

場所：尾上流稽古場

講師：尾上 紫（尾上流日本舞踊家）、
大和櫻笙社中（演奏：大和楽）



足袋をはくのもひと苦勞
神聖な舞台への敬意を



舞台は、18世紀の
ヴェルサイユで社交界を
夢見る少女（野々）の
恋愛トークから始まる

『日仏宮廷恋愛模様 ～はてさて雅か嫉妬の情念か!』

日時：2018年11月1日

場所：観世能楽堂（GINZA SIX 地下3階）

第1部 語りとチェンバロ&ハープ演奏：

野々すみ花（語り）、西山まりえ（演奏）

第2部 能「葵上」：武田宗和（シテ）他



鬼女の姿になって襲いかかる後シテ（武田宗和）と
祈り伏せようとするワキ（宝生欣哉）

心が弾む街 未知なる体験を求めて

～東京アート&ライブシティプロジェクトの幕開け

伝統から現代まで多種多様な文化芸術が集積する、日比谷・銀座・築地。昨秋、このエリアの魅力を世界に発信する「東京アート&ライブシティプロジェクト」の実行委員会が発足して初の共同事業を実施しました。

ひとつは、「初めての日本舞踊～日本の文化と人を知ろう」と題した外国人向けの日本舞踊体験です。通常は開放されていない稽古場を

会場に、1日のみの体験教室を5日間実施。浴衣と足袋を身につけ、所作を学ぶだけではありません。四季折々の自然の豊かさ、指先に込められた繊細な心の動きまで、丁寧に伝えます。実演家と、伝える技術を持つ通訳との協働により、多様な国の人たちが共感しあうひと時をつくり出しました。

もうひとつは、王子ホールと観世能楽堂が

タッグを組んだ公演『日仏宮廷恋愛模様』。「宮廷」「女の情念」を共通項に、バロック音楽と能楽を競演させる試みです。能舞台上、チェンバロとハープの軽やかな音色と野々すみ花さんの澄んだ声が響く第1部に対して、第2部は重厚な声に舞と囃子が加わって『源氏物語』の悲哀を描きます。観客からは「こんな空間でクラシック音楽を聴くなんて新鮮」「初めて能を観たけれ

ど他の演目も観てみたくなった」という声の方々に聞こえ、終演後のロビーは、新しいものに触れた高揚感であふれていました。

常に新しい文化を発信し続けるこのプロジェクトから、ますます目が離せません。

東京アート&ライブシティプロジェクト
<https://www.artandlive.net/>

「文化芸術省」の創設を! 政府へ提言

文化芸術振興議員連盟の総会が12月に開かれ、文化を所掌する省の創設について提言がまとめられました。この提言では、「文化芸術を創造し、享受し、文化的な環境の中で生きる喜びを見出すことは、人間の変わらない願いである」という文化芸術基本法の理念を原点に位置づけ、文化芸術の本来的な価値を高めることを中心にすえた文化行政の必要性が強く打ち出されています。

12月25日には、首相官邸を訪れ、菅官房長官へ要望を提出。文化芸術推進フォーラムから野村萬議長(芸団協会長)らも同席し、議連の方針への賛同を伝えました。

芸団協としても長年、「文化省」創設を訴えてきました。実現に向けて、新たな局面に一步を踏み出したといえます。

*提言の全文は、文化芸術推進フォーラムのサイトよりご覧ください。
ac-forum.jp/2018/12/25/2323/



【花伝舎カレンダー】 芸能花伝舎を拠点に展開している事業いろいろ

芸術体験ひろば

今年で15回目となる芸能花伝舎の恒例イベント!
0歳から大人まで楽しめる企画をたくさんご用意してお待ちしています。

詳細・申込み方法は、芸能花伝舎ウェブサイトにて順次お知らせします。

5/5(日・祝)

会場:芸能花伝舎



www.geidankyo.or.jp/12kaden/

新宿区 春の文化体験プログラム

ワンコインで気軽に本格的な文化芸術体験!

対象:16歳以上

参加費:100円

会場:芸能花伝舎

申込締切:2/28 必着

3/19(火)

寄席文字

3/21(木・祝)

小唄・三味線



ご支援のお願い

より良い稽古環境と子どもたちに良質の芸能体験を提供し続けること。この二つは、芸能花伝舎の運営に携わる私たちの願いです。将来にわたって持続するためには、皆様のご支援が必要です。是非、ご寄付をお願いいたします。
www.geidankyo.or.jp/support/

公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会

● 東京オペラシティ事務所

〒163-1466 東京都新宿区西新宿3-20-2

東京オペラシティタワー11階

Tel:03-5353-6600 Fax:03-5353-6614

● 芸能花伝舎事務所

〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30

Tel:03-5909-3060 Fax:03-5909-3061